

7 番（小川義昭君）

おはようございます。

6 月会議の 2 番バッターとしての発言の機会を得ました白政会の小川義昭であります。

通告に従いまして一般質問を行います。

昨年の 3 月会議において、私自身副議長職をいただき、この 1 年間、無事職責を果たすことができましたのも議員の皆様、市長初め職員の皆さん、そして市民の皆様方のお力添えによるものと、改めて感謝を申し上げます。

したがって、今回の一般質問は 1 年ぶりということでもありますので、いささか緊張感でございませぬ。また、今 6 月会議での一般質問が、私自身白山市が誕生しました平成 17 年の 3 月議会で行った一般質問から数えて、通算 40 回目の記念すべき一般質問となったわけでございます。

そこで、今 6 月会議での一般質問は 1 年ぶりの登壇ということでもありまして、19 項目にわたっての質問と多少多くなりましたが、どうかよろしく願いいたします。

今会議の質問内容は大きく分けて、1 つは第 2 次白山市総合計画について、2 つ目は石川海岸沿いの海岸林について、そして 3 つ目が辰巳町の火災の検証結果及び密集地での防火対策について、そして最後に、防火対策についてであります。

それでは、まず第 2 次白山市総合計画について伺いいたします。

今、我が白山市は新たに今後 10 年間のまちづくり施策の基本となる総合計画を策定する節目の時期を迎えております。今 6 月会議においては基本構想案が議案提出され、市御当局も既に計画の策定を視野に具体的な検討作業に入っておりますが、近い将来の白山市の実情、未来の白山市の姿を定める極めて重要な仕事であり、その内容の根幹にかかわる計画の方向性に関して意見を申し述べたいと思っております。

行政にとっての総合計画は、そもそもそのまちの未来の青写真でなければなりません。今、私たちが暮らす白山市をどのような個性や魅力で輝かせ、子や孫の時代に譲り渡していけばよいのか、その目指すところ、道筋を明確に示してこそその構想であり、計画というべきであります。よって、ただ単に健康や笑顔のまち、元気なまちといったスローガンを掲げてよしとすべきでは断じてありません。

「健康」とか「笑顔」、「元気」といった要素は、本来自治体が最低限の仕事として住民に指し示すべきものであり、医療や福祉、教育、産業、文化などの各分野において充実した施策を展開することも、また自治体に課せられた当然

の責務に過ぎません。ややもすると自治体が掲げるこの種の計画では、自治体が担ってしかるべき基本的な仕事を羅列して、目指すところは「健康」とか「元気」といった個性の乏しいスローガンで一くくりにされてしまいがちです。

それゆえに本格的な策定作業を控えている今だからこそ、あえて申し上げたいのですが、市民生活に直結する基本施策を充実させた上で今後の白山市の個性をどこに求め、磨き上げていくのかをむしろ熟慮すべきであろうと考えます。

私の私案の一端を申し上げるならば、白山市は全国でも指折りの山岳信仰である白山信仰の時代から全国 3,000 余社の白山神社の総本社であり、来年が創基から 1,300 年に当たる白山比め神社の歴史、全国でも稀有な一向一揆の最後のとりでとなった鳥越の各種遺構などが鶴来地区から白山ろくにかけて点在しております。

同時に松任地区に目を移せば、加賀の千代女に象徴される江戸期からの俳諧文化、宗教哲学の分野で名高い暁鳥敏師のすぐれた業績があり、日本の鉄道の今昔が凝縮した北陸新幹線の整備工場と古くからある鉄道整備工場が至近な距離にあり、平野部から白山ろくに至るまで個性豊かで多彩な時代が織りなす歴史街道が存在しています。

仮にこうした歴史街道のまちを将来の白山市像のベースに置くとするならば、旧松任地区では J R 松任駅前から大町、中町の商店街にかけてのエリアを歴史文化ゾーンと規定してさまざまな面整備が考えられます。施設の新設や改装、集約などにより、正面玄関である駅から商店街の松任地区中心部を歩いて文化的な散策ができる回路として整備することが考えられます。また、内外から人を呼び込む不可欠な仕掛けとして、松任文化会館を中心とした広範囲な駐車場スペースなどの面整備も当然必要かと考えられます。

同じく鶴来地区においては、白山信仰のメッカである白山比め神社を核として、旧鶴来町内を改めて情趣あふれる門前町に磨き上げていくことが地域の再生、活性化へと結びついていくのではないのでしょうか。その上で手取川の上流に沿い、中世の歴史遺構を活用した歴史文化観光の魅力を際立てさせていくなどの方策が考えられそうです。

行政が掲げる総合計画については、その内容に自治体が見据える物語性やストーリーが不可欠であり、自治体みずからが柔軟な創造力と達成に向けての気概を持つことこそが肝要と考えます。

白山ろく、鶴来、美川、そして松任地区を金太郎飴的なまちづくりではなく、それぞれの地域が持っている魅力、特色を連動させ、さらに磨きをかけ、大いに生かしていくべきかと考えます。

あえて苦言を呈するならば、私は市御当局がどこを目指そうとされるのか、今でも白山市の将来像がぼやけていて判然とはいたしません。総合計画策定

が緒についてこのタイミングだからこそあえてお聞きするのですが、将来の青写真を先頭に立って描かれるべき市長として、目下胸に温めておられる未来へのもの道筋、将来へのストーリーがおありなら、ぜひ拝聴したいと存じます。

これに関連して、JR松任駅前にあります松任ふるさと館紫雲園は明治期以降の産業遺産ともいえる大変すばらしい施設ですが、老朽化が進んでおり、使い勝手も悪く残念でなりません。これまで以上に市民の人たちはもとより、市外から訪れる観光客にも広く鑑賞、活用していただけるような、迎賓館までとは言わずとも、文化を愛でながら飲食なども提供でき楽しめる生きた施設として改修に踏み切られてはいかがでしょうか、市長のお考えをお聞きいたします。